

花には太陽を子どもには平和を

ずしぼんじゅ

くるみえん
Since 1975
小金原保育の会 幼児教室

発行 第257回 R6.12.9 広報委員会

小金原保育の会 幼児教室



古紙を利用して作った
ポチ袋



11/30(土)くるみえんバザーが行われました！今年もテーマ通り、母たちがアイデアを出し合い、それぞれに集い、たくさん
の手作り作品たちが店頭で並びました！そんな
渾身の作品たちの一部をご紹介します♪

くるみえん バザー

今年のテーマ

『みんなでつくる
くるみえん』

◇ どんぶりネックレス ◇



↑ 園芸サークルによる
どんぶりの置物&キーホルダー
↓



玄米・米ぬか
を使った 玄米カイロ
優しいおたけこ



バザー委員は2年目でしたが、今年も盛り上がりよかったです！「みんなでつくる。くるみえん」というテーマを達成できたのではないかと思います。今後は次の世代にも活動を通してくるみえんの楽しさを伝えていきたいです！

毎年、冬に開催されるくるみえんバザー。外部の方々も来られるこの大きなイベントを、今年も無事にいくことができるのか... 最初は不安でいっぱいでした。幸いにも、バザー委員の心強い仲間！周りの母たち！OBさん！先生方！沢山の方々に助言やアドバイスを頂き、みんなが試行錯誤をしながら準備を進めてきました。当日はたくさんの方々に来て頂き、忙しい中でもみんなが協力し合い、楽しくできたと思います。すべての皆様に感謝です。

ありがとう
ございました！！

バザー委員長!!
佐々木
さん



バザー委員
7-7ショップ
担当
松田
さん



牛乳パックでクリスマスツリーを作るキッズワークショップを担当しました！たくさんのお子どたちが参加してくれ、1人1人の作品に個性が出ていたのを見られたのも、おもしろかったです！



～秩父より愛をこめて～
いろいろな生命との関係性を問う
つながり

基調講演を聴いて 川鍋智子

先生が訪れたヨーロッパバスク地方、ピレネー山村ではどの子も皆、仕事を携えている。

羊を放牧させ、畜をして夜、羊舎に帰すなど、年齢に応じて仕事の量や質が上向きになることが、成長していくことであり、有意義な人間として生きていく。仕事が終われば自由で何をもしても良いと言う。また、長年通っている群馬県上野村では、「仕事」と「稼ぎ」をはっきり区別している。「仕事」は村の共同資本を維持していくための働き。「稼ぎ」は生活のための収入を得るための労働である。

今の日本の子どもたちのおかれている状況はどうでしょうか、将来のために今やっておかなければ...。将来のため、未来のためと生きていくうちに一生が締めつけられてしまっているのではないかと、収入にはならないが社会を支えていく上で重要な働き＝仕事をしないまま大人になっているのではないかと。

くみえんでは、保育目標を「よく遊び、よく仕事をする子」としている。自分のやりたい遊びを思う存分、自由にできる環境。年少中長と年齢が上がると「仕事」が無理のない形で大きくなること。くみえんの子どもたちは、確かに今を生きていると感じた。また、保育目標の意味を再確認できた講演だった。

ゼロ 講義
『君は星のかけら』
いのちのつながり
を体験して生き方を
変えませんか
下重 高代
(サステイナブルアカデミー
ジャパン)

君は星のかけら
いのちのつながりを実験して持続可能な暮らし方を目指しませんか?
斎藤 三恵子

「私たちに宇宙のビッグバンでらららりにふた星のかけらができた生命だよ」と始まりました。

気持ちのよい秋の空気と草や土の感触によって、見たところ森や水辺の循環の平面の図が、立ち上がって見えように感じました。私たち人間は自然の一部で、その循環の中に生きるもの＝生活するもの、ということに改めて気付かされるくらい、そのことを忘れる程、感じるおもしろい生活を送っているにも気付かされました。

私たちは生活する人を育てています。気の遠くなるような年月の中で、バランスをとった自然の循環が、現在の人間によってくずれようとしていることにも改めて危機感を覚えました。

前日の基調講演と重ねて考えると、森や海など特別な自然を守るだけでなく、身体にしみこませていくように身近な自然、ヒトと生活を送ることが、子どもが育ち大人がよりよく生活する環境を守ることに繋がっていくのではと思いました。自然の循環の一部を実感する生活は、ハードルが高いと思えますが、生活を大事にするとは誰にでもできます。では、生活を大事にする、どうしたらいい? それをお母さんたちと考えていけたらと思っています。

基調講演
11/2(土)
14:00～15:30
内山 節氏
哲学者
子どもたちの時間
1950年東京都世田谷区生まれ。元立教大学大学院21世紀社会デザイン研究家教授。NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。1970年ごろから東京と群馬の上野村での二重生活をしている。『内山節著作集』(農文協)、『自由論』(岩波書店)、『いのちの場所』(岩波書店)、『文明の災禍』(新潮新書)、『新幸福論』(新潮選書)、『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』(講談社現代新書)など著書多数

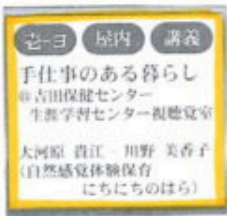
ゼロ 座談会
森のようちえんの
その先、小学校はどうする
【制度編】
竹内 延彦(長野県山ノ内町
教育長)
小倉 宏樹(認定NPO法人
よみたん自然学校)

森のようちえんのその先、
小学校はどうする?
蓮沼 奈緒

今、公共の学校教育に馴染めず、不登校やヤングケアラーなどの困難を抱えている子どもが多く、学校の多様化などが、必要とされ、福祉と教育が連携した支援体制づくりが求められており、その中で長野県の取り組みについて話を聞きディスカッションを行いました。

子ども家庭庁が定めた「子ども大綱」で、全ての子ども、若者が自立して個人として等しく健やかに成長することができ、自身の状況、置かれている環境等にかかわらず、等しくその権利擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来のために幸せな状態で生活を送ることができる社会を「子どもまんなか社会」としてその実現を目指します。と記されており、長野県では「子どもまんなか」の観点を取り入れ、フリースクール認証、補助金などの交付や様々な施設へのサポートを行っているとのことでした。

しかし、日本は日本国憲法、子ども大綱等をはじめ、子どもの権利が保証されているにも関わらず、子どもたちの環境が、整っていない状況にあります。また、参加者の話を聞いてみると、くみえんが認証された自然環境保育認証制度がない県も多く自分たちが行っている保育が認められていない、という声もよく聞かれました。思っていた中で保育をさせてもらっていることを再認識し、今までくみえんを続けてきた方々に感謝し、これから今の保育を守っていきたく感じました。そして、我が子だけでなく、全ての子どもたちが幸せに生活を送ることが出来る社会をつくるのが大人の役目だと強く思いました。



手仕事のあそび暮らし

大木由紀子

会場には羊毛、毛糸、布で作られた人形や動物物、おもちゃが並べられています。小さな声でお話しが女台まわります。

まずお手玉を1つ渡され、手さわりの感覚をたよりに中身を想像していきます。小豆、米、石などいくつかおまじないが、答えはじやうだまです。そのお手玉を今度はアイコンタクトで組んだ木手に投げっていきます。声には出さず、皆でお手玉を投げ続けることができました。次は誕生日順になります。やはり声には出さず、身ぶり手ぶりだけでパントマイムのようにして月、日、伝え、予想して並びました。子どもの成長のリズムについてもお話しがありました。幼児は2-3才で歩く、4-5才で話し、6-7才で考える。その中で、角虫、生命、運動、平衡、嗅覚、味覚、視覚……と順に感覚が研ぎ澄ましていくそうです。こうして終始静かな空間で羊毛の鳥を作ったりしながらゆったりとした時間を過ごしました。聞きたい、知りたいと思ふ時、人は耳を澄まして感覚をつかもうとします。大きな声で言わすとも、子どもたちとそよ風は日々の生活を過ごしたいと思いました。



鈴木 知加

「心揺れる保育の仕方」というタイトルに引かれて参加しました。野澤先生は西宮市甲山で、日常通園型の森のようちえんを14年前に開園され現在21名の子どもたちと毎日森の中で過ごしているとのことでした。どのような毎日なのか、森の中で子どもたちはどんな反応をするのか、いくつかのエピソードを交えながら子どもたちが森から受け取るものについてお話を伺いました。その中で印象的だったことを紹介します。

「いい日 = 天気がよく暖かい日ばかりで森で過ごしても心は動かない、育たないのです。冬の日も雨の日も風の日も行きたくない日も森に行くことが大事なんです。もちろん子どもたちは最初泣きます。」

「森では様々な経験があります。経験という土台がなければ考える人にはなりません。」

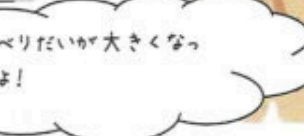
「森には予期せぬ死があります。鳥や小さな生き物の死と向き合う経験は外にいることのメリットだと考えます。」

森と、そこで遊ぶ子どもたちの他には余計なものがない環境のため、野澤先生の子供たちへの眼差しがとてもクリアで透明感を感じるようなお話でした。保育者としてというよりも子どもと、私もそんな環境で過ごせたらという思いが湧きました。

← 秋のおみやげ♡ みんなは自然の恵みで出来ています

一緒にくるみえんにかかわりませんか？

こんにちは、くるみえんOBの小茂田です。くるみえんでお世話になった子どもが小学校の4年生と2年生になります。今はくるみえんバザーに出店させて頂いたり、お父さんの会として草刈りなどで関わらせて頂いています。お父さんの会は、年に一回の草刈りや道具修繕の様々な力仕事、運動会の手伝いや先生方とお酒を交えて子どもの話を聞ける機会など作っております。決まり事などがあるカチッとした会ではなく、ふわっとゆる〜く繋がっています。初めてお父さんの会の事を聞いた時の印象は「人と関わるのめんどくさそう…絶対顔出すことはないだろうな」でした。もともと人と関わるのが苦手な私としては、わざわざ休みの日に神経を使い何かをしに行くというのは全く考えられなかったんです。それでも「子どもの事なんだから」と妻に言われて恐る恐る行った草刈りが最初でした。そうやって少しずつくるみえんに自分から関わらせて頂くことで、子どもを預けているという感覚から、自分が当事者として、子どもの一生に係る場所「くるみえん」を作っているという感覚になんとかなくなっていきました。そこで知り合ったお父さんたち。呼び名は「〇〇くんパパ」「〇〇ちゃんママ」が多いです。くるみえんに顔を出すために「〇〇くんパパ」の子どもの、まさに〇〇くん達がいいます。どんどん子どもたちの顔を覚えて行きました。そうするとだんだん「〇〇ちゃんママ」が分かるようになってきて、子どもたちの事が意識できるようになって、それぞれの子どもたちの事が分かるようになりました。そんな中、私の上の子どもの最後の運動会がありました。成長を感じる大切な機会です。あんなに泣いて園に行けず、知らない子どもたちがいる場に入っていけなかった我が子が、堂々と目の前のことに挑戦し、色々な感情を表現している姿に泣くくらい感動しました。でももう私がかつていたのは自分の子どもだけではなく、子どもたちの人数倍の感動でした。そしてこの子達と一緒に成長してきたんだと、みんなとの思い出やそれぞれ我が子の成長を応援するパパやママ達の顔など、大きな大きな意味での自分の子どもの成長を見ることができたという機会を頂きました。その様な機会も、お父さんの会に関わらせてもらった事がきっかけだったので、お尻を叩いてくれた妻やお父さんの会を維持してきて頂いたパパ達には感謝ばかりです。決して勧誘しようという事ではありませんが「我が子の成長する場所を知る」という視点からも、ぜひお父さんの会の活動に関わってみてください。我が子の成長が今よりもっと高い解像度で見える事を、自分の体験を持って確信しています。



うんどうかい

10/20(日) すがすがしい秋晴れのもと今年も、くすみえんらしさが たっぴりとなつまった運動会が開催されました!



表現あそびで、年齢差はあるけど、みんなで1つになってお話しを作り上げていたことが、とてもステキだなと思いました。また、自分の子だけではなく、がんばっている子供たちをみると、自然と応援したくなり、成長を感じられる運動会でした!

ひばり組 松田

初の子の初めての運動会。お友達と楽しくお話ししたり、おかしかった時の笑顔が忘れられません。濃い思い込みが結果で最高の運動会でした!! 先生方のご指導・ご準備ありがとうございました。来年、楽しみにしております。

もも組 松本

みんなで作る運動会の感じに、毎回ホッコリしています。大人になると色々なサービスを受けられますが、自分たちで作ったイベントをみんなで楽しむ機会はとても貴重ななと感じました。

うさぎ 宮内

グラウンドには 温かい声援が飛び交いました //



最後は参加者全員でわらべうた。大人も子どもも皆で手を取り合い、楽しみました



根本先生のお悩み相談コーナー

〈今回のお悩み〉 小学校に向けて、今のうちに準備しておくことは、ありますか??

教室での生活もあとわずかになりました。それ以前には小学校入学が、急いでお準備をしなければと不安に思われているお母さん方へのメッセージです。
おつと昔のあの日のことが浮びます。さうちゃんのことです
アレキサンダーを患って季節の変わり目も行事にすると お母さん自身に負担をかける状況で、いつもの称ひちゃんへの呼吸は苦しそうに見えました。その様子を見るのが「大丈夫? お母さんにできる?」と不安が、心には既に言葉はかりをかけていました。すると「大丈夫 連絡してくれていい。このままの状況」とほっと言いました。その思いの強さと子どものながらも「うん分かった」驚きまは、あんなに弱々しくおつとちゃんに寄り添っていただけは、一幼児期は一人前の意識と時に扉をあけ自信を持って幼期を卒業していく。一感無量でした。子どもの力かまを信じましょうと信じて小児科医の言葉があります。子どもの能力は本来備わっている状態にたどり着く必要は勝手に自然と花開くから心配はしない」と、言葉とは大切な目撃と共に話してきたのだから、案外の手がかりもいろいろあります。

編集後記

もりもり盛り沢山の257号いかがでしたか? 2学期はた〜くさん行事があった、ずくぼんじゅ大ボリューム号となりました♪ 本号からずくぼんじゅデビューしました5冊です♪ 大好きなくすみえんの日々を皆さんにお届けします♪

みなさん体調に気を付けて 年末年始もお楽しみください♪



“くるみえん50周年”に向けて

by 50周年
実行委員会

着々と準備が進んでいます ⇨

50周年ニュース!!

2024.12 50周年実行委員会

Topic 1. くるみえんは、2025年50周年を迎えます!

⇨ 2025年、6月15日(日)お祝いの会を実施



◎日時 2025年6月15日(日) 13:30~16:00 (予定)

◎場所 くるみえん

◎式典内容 1部 来賓をお迎えしての式典
2部 在室・OBさん・みーんなどくるみえんのお誕生をお祝いしましょう!

のみもの・たべもの
用意します!

みんなであらべうたを
うたおう~♪



◎現もも、ひばり、うさぎ組には、1月のクラス会で欠欠をとります! 予定の確認をお願いします

Topic 2. 50周年記念文集を作っています!

- ⇨ くるみえんの50年の歴史の写真が盛り沢山々々
- ・根本先生のインタビュー集録
- ・12/21にくるみえんにて行われる社会学者の大学准教授の方との対談も掲載



記念式典にて参加者へ配布予定です!

Topic 3. デジタルアーカイブを公開 予定しています

⇨ くるみえんホームページにて、くるみえんの50年を振り返る写真を多数掲載予定。現在写真を選んでいます。



在室に
配付した
50周年
ニュース

みなさん
奮って
ご参加
下さい



1月の運営委員会便りと共に
「お祝いの会の欠欠のご案内があります!

番外編★

バザー準備の 風景



バザー準備期間中の
とある日. 2Fではしめ
縄&リース作り. 1Fで
は玄米カイロ作りが.
同時進行で行われて
いました. しめ縄&リース
の材料は全て持ち寄り.
それぞれの個性とセンス
がキラリと光る作品が
たくさん出来上がりました.

玄米カイロ作りは. 玄米+米ぬかを炒るところから.
絹糸を用いたのミシン縫いは「むずかしい～」との声も
聞かれました. 手塩にかけて作られた作品たちは. バザー
当日. あ, という間に完売. みなさん. お疲れ様でしたー!!!